

平成29年12月15日

三浦市議会議長 岩野 匡史 様

総務経済常任委員会

委員長 草間 道治

平成29年度 総務経済常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程

平成29年10月30日（月）・31日（火）

2. 視察地

富山県南砺市 10月30日

富山県魚津市 10月31日

3. 視察参加者

総務経済常任委員会

委員長 草間 道治

副委員長 小林 直樹

委員 木村 謙蔵

委員 長島満理子

委員 出口 正雄

委員 藤田 昇

随 行 長島ひろみ

4. 視察事項

◇ 富山県南砺市

「定住促進」について

・結婚支援、定住・移住対策と空き家対策事業について

◇ 富山県魚津市

「港の利活用」について

・みなとオアシス魚津について

【10月30日(月)】

■富山県南砺市の概要

(南砺市HPより)

- ・面積 668.64平方キロメートル
- ・人口 51,991人(平成29年8月)
- ・世帯数 17,795世帯(〃)
- ・産業別 第1次産業(6.7%) 第2次産業(38.7%)
第3次産業(54.7%)
- ・市制施行 平成16年11月1日(城端町、平村、上平村、
利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町が合併)

■位置・地勢

南砺市は、富山県の南西部に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は1,000メートルから1,800メートル級の山岳を経て岐阜県飛騨市や白川村と隣接しています。

市域の約8割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれています。また、市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成しています。

気候は、典型的な日本海側気候で、冬は寒く、降水・降雪量が多い地域です。中でも、城端、平、上平、利賀、福光の各地域は、特別豪雪地帯に指定されており、山間部では最大積雪深が3メートルを超えることもあります。また、平野部では春先の強風や台風、冬の雪、夏の暑い日差しを遮るため、散居村特有の「カイニヨ」と呼ばれる屋敷林で家屋を守っています。



合掌造りの家屋

南砺市「定住促進」について

(結婚支援、定住・移住対策と空き家対策事業について)

● 視察目的

近年、全国的に少子高齢化による人口減少が進んでおり、本市においても、毎年人口が減少し、高齢化が進んでいる。現在、婚活事業や定住促進・空き家対策事業を進めている状況において、南砺市で取り組んでいる、「南砺で暮らしません課」による婚活支援事業や定住・空き家対策事業について、これまでの取組の経緯や実施状況・成果を調査し、本市の定住促進に生かすことを目的とした行政視察とすること。

● 視察先対応者

● 進行：議会事務局 村田主幹

議員：民生病院常任委員会 水口 秀治委員長

説明員：南砺で暮らしません課 市川 孝弘課長

● 視察訪問先

南砺市役所

● 事業概要

■ 南砺市「南砺で暮らしません課」の取り組みについて

◇ 婚活支援事業について

南砺市で行っている婚活支援事業は、平成23年4月に市民協働課に婚活支援係を新設し、婚活支援事業を始めています。

特徴は、参加者で「婚活倶楽部なんと」を作り、事前面談して男女の会員を募っており、現在では、会員数は473名(女性221名：男性252名)、また、婚活応援団「なんとおせっ会」は会員数が121名(女性87名：男性34名)いることであります。これまでの成果については、平成29年10月現在の成婚カップルは87組成立するなど、市が行っている婚活支援事業として大きな成果が出ています。

◇ 定住・空き家対策事業について

平成26年4月に南砺で暮らしません課を新設して、移住定住と婚活支援を推進する課を作り、定住・空き家対策事業を行っています。

南砺市移住定住施策では、情報発信事業(移住セミナーの開催)、移住準備事業(体験ツアー・体験ハウス等)、定住サポート(引越サポート、家賃・定住補助等)を行っています。

■ 主な質疑応答

Q：婚活事業について、トラブル等はあるか。

A：最初のころには、おせっ会さんの持っている個人情報取扱いについて少し問題があった。

Q：定住事業について、定住奨励金については何年か住み続けなければいけないのか。

A：年数については、特別決めていない。

Q：企業に対する補助金について、何社位の実績があるか。雇用した事業所に対する補助金は珍しいが。

A：27年、28年で、27事業所、対象者33名に対し補助金を交付した。

Q：婚活事業について、おせっ会さんについては、最初のどのようなかたちで募ったのか。

A：市長の危機感と、一人の市民の方からの強いおばさん根性が相まって始まった。

Q：地域サポーターについて。

A：今年から始まったばかりで、成果が出ていない。

Q：おせっ会さんのセミナーはあるのか。

A：最初のころは行っていた。おせっかいの心得等について。

Q：空き家バンクの取り組みについて、奨励金、その他推進の取り組みについて。

A：空き家があっても、持ち主の方が空き家バンクに出したがらない、傾向がある。

Q：定住してきた若い方々の仕事・職業について。



A：地域に根づいた仕事、森林組合・農業・スキー場・民宿でバイト等。

Q：婚活の組織の事前審査・面談について。

A：参加する動機の見極め、参加意欲の確認等。年齢は、25歳から50歳。





民生病院常任委員会 水口秀治委員長



南砺市役所会議室



南砺市役所前

【10月31日(火)】

■富山県魚津市の概要

(魚津市HPより)

- ・面積 200.61平方キロメートル
- ・人口 42,406人(平成29年8月)
- ・世帯数 16,742世帯(〃)
- ・産業別 第1次産業(4.1%) 第2次産業(39.1%)
第3次産業(56.7%)
- ・市制施行 昭和27年4月1日

■位置・地勢

魚津市は、富山県の東部に位置し、富山市から東へ25キロメートルの距離にあります。北東は布施川を境に黒部市と、南西は早月川を隔てて滑川市・上市町と接しています。北西には富山湾が広がり、「蟹気楼・埋没林・ほたるいか」が本市の三大奇観としてよく知られています。

南東部は、最大標高2,415メートル(釜谷山：毛勝三山の一つ)に達する山岳地帯で、北アルプスに連なっています。これらの山々を源として、片貝川、布施川、早月川や角川などの河川が、市内を潤しながら富山湾に注いでいます。市域の約70%が標高200メートル以上の急勾配な山地で占められ、台地から平坦地、海岸へとおだやかな斜面を形成しています。海岸線は比較的平坦で、その延長は約8キロメートルですが、海中では、海底が急傾斜となり深層まで落ち込んでいます。そのため、魚津の港は昔から良港として船の出入りが多く、海底の湧水に育まれ魚の種類も量も豊富で魚津の名のごとく県下屈指の漁場として広く知られています。



魚津市役所前

魚津市「港の利活用」について

(みなとオアシス魚津について)

● 視察目的

現在、本市では三浦市水産物卸売市場の高度衛生管理化の実施と共に低温卸売場の建設を進めている。今後の市場を核とした地域活性化事業の推進に向けた取り組みのため、先進地である富山県魚津市「港の利活用」の取り組み状況と、「みなとオアシス魚津」の現状、これまでの取り組みの経緯や実施状況・成果を調査し、本市の地域活性化事業に生かすことを目的とした行政視察とすること。

● 視察先対応者

進 行：議会事務局 堀口さん
議 員：関口雅治議長
説明員：農林水産課 山岡課長
同課 水産振興係 館係長

● 視察訪問先

魚津市役所

◇ 現地視察 みなとオアシス魚津

● 事業概要

■ 魚津市「港の利活用」の取り組みについて

◇ みなとオアシス魚津

魚津市では、魚津港北地区は、平成19年3月に国土交通省の「みなとオアシス」に登録し、蟹気楼の見える港として、全国にPRしています。

「みなとオアシス魚津」エリア内には、海の駅蟹気楼・魚津埋没林博物館・魚津港北緑地等があり、年間を通して様々なイベントを企画し、多くの来遊客が来ています。



● 主な質疑応答

Q：みなとオアシス周辺の賑わい創出のための検討委員会の設置とあるが、構成委員について。

A：企画等は観光協会と市の商工観光課・漁協・シーサイドプラザの4者で構成している。

Q：「みなとオアシスSea級グルメ全国大会」について。

A：「みなとオアシス認定10周年」記念のイベントとして「Sea級グルメ全国大会」を平成29年10月に開催した。

Q：魚津市は港湾施設に魚市場と漁港施設があるが、漁港区域の指定はされていないのか。

A：漁港区域の指定されていない。2カ所の漁業協同組合があり、一つに統合して港湾施設内に新たに市場を建設した。

Q：マリーナ施設の誘致の検討はしているか。

A：別の港では、今後検討していきたい。

Q：港湾施設としての荷上げについては、どのような施設があるのか。

A：建設施設の荷上げ場があるが、港施設の方が多い。

Q：埋立事業で市の負担はなかったのか。

A：県の港湾施設なので、市の負担はなかった。

Q：平成16年に高度衛生管理型魚市場を建設しているが、もともと埋立事業の計画の中に高度衛生管理型魚市場の建設の計画はあったのか。

A：もともと埋立事業の計画のなかに高度衛生管理型魚市場の建設の計画はあった。

Q：魚市場で多く水揚げされている魚は。ブリか。

A：ブリは最近とれないので、ホタルイカ・ウマズラ等のブランド化を目指している。

Q：駐車場は、埠頭用地として蜃気楼が出たときの駐車場として利用しているが。

A：蜃気楼が出る時には、駐車場が足りないくらいの観光客が訪れている。



魚津市役所会議室



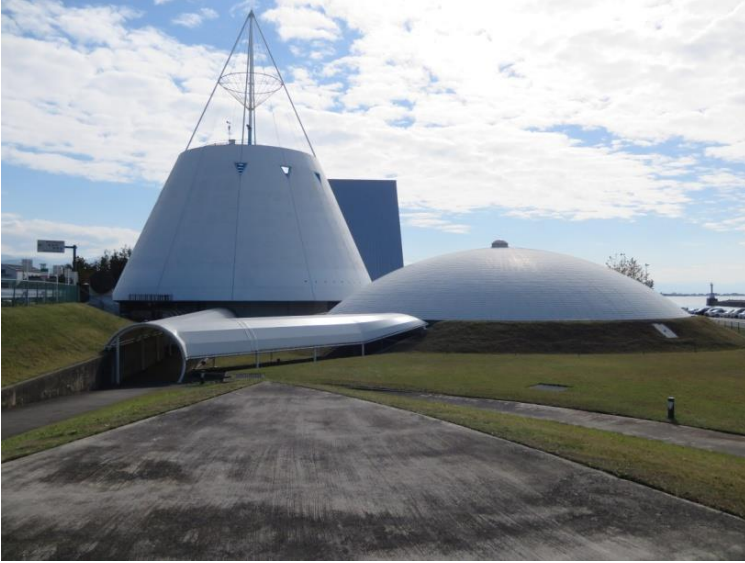
魚津市魚市場



市場内視察風景



「道の駅蟹気楼」
魚津シーサイドプラザ



魚津埋没林博物館



博物館内を視察



地下水で保存している
埋没林

行政視察の成果について

総務経済常任委員長 草間 道治

富山県南砺市・魚津市行政視察を終えて

厳しい冬を迎える前に訪れた富山県では、穏やかな天候に恵まれ視察を終えることが出来ました。視察を担当していただいた両市の議員・職員の温かい歓迎と、丁寧な視察対応をしていただいたことに感謝いたします。

富山県の人々は、穏やかで、やさしく感じました。



今回、視察で訪れた富山県南砺市では、結婚支援事業、定住・移住対策と空き家対策事業のすべてを「南砺で暮らしません課」で対応していることは、効率が良く、迅速な対応により、それぞれの事業で大きな成果が出ていると感じました。

特に、これまでに87組のカップルが成立している、市が行っている婚活支援事業については、県内の若年女性の推移や未婚率の調査で、現在の南砺市の状況調査を行い、「婚活倶楽部なんと」や縁結び活動をする「なんとおせっ会」等、婚活地域サポート事業により年間を通して様々な婚活イベントを開し、また、婚活研修の実施により大きな成果が出ていることは、今後、本市における婚活事業の参考にしていきたいと感じました。

また、定住・移住、空き家対策事業では、移住セミナーや移住体験ツアーの実施と共に、定住奨励金や移住補助金・三世代同居等補助制度・出生祝い金等は、今後の自治体間競争で、人口増加や将来を見据えた施策を展開していくには、補助金制度等は重要な施策であるとともに、今後、本市の定住・移住、空き家対策事業の参考にしていきたいと感じました。

魚津市の「港の利活用について」の視察で感じたことは、魚津市は蟹気楼の見える町として全国的に有名な町であり、多くの観光客が年間を通し来遊する市であります。

また、埋立事業を地方港湾整備事業として県が行い、そこに漁業施設として高度衛生管理型魚市場や観光物販施設「海の駅蟹気楼：魚津シーサイドプラザ」等の施設建設を当初から計画した埋立てをしていることは、本市の埋立事業と大きな違いでありました。

みなとオアシス魚津を活用した地域振興を目的とした活動計画（イベント等）の実施による大きな成果が出ていることは、本市における漁港を核とした今後の振興ビジョンやまちづくり事業による地域活性化策として、有意義な視察となりました。

総務経済常任委員会 視察報告書

副委員長 小林 直樹

●南砺市 視察事項 婚活支援、定住・移住対策と空き家対策事業について

南砺市の人口は、2010年に54,724人でしたが、2040年には32,130人（58.7%）になると推計されています。人口減少の危機意識から「南砺で暮らしません課」という部署を作り様々な取り組みを行っています。

婚活支援では、「婚活倶楽部なんと」に473名が会員登録をし、「婚活応援団なんとおせっ会」が「お見合い会」等を行っています。そして、平成23年から29年までに87組のカップルが成婚しました。担当者から「楽しくやっている。ただ、個人情報の取り扱いには注意をしている。」と説明がありました。

定住対策では、転入奨励金として新築住宅の場合、100万円＋家族加算（1人5万円）等があります。その他にも、三世代同居等補助、民間賃貸住宅居住補助等の制度もあります。

《感想》

婚活支援での「婚活応援団なんとおせっ会」は、人と人とを結びつけるために良い役割を果たしていると思いました。また、定住対策では、多くの補助制度が考えられていることと補助金額の多さに驚きました。

三浦市の人口は、2010年に48,352人でしたが、2040年には31,786人（65.7%）になると推計されています。三浦市も、婚活支援や定住対策等と併せて、地域経済を活性化させ雇用の場を確保する等の対策で、人口減少に歯止めを掛けることが必要です。

●魚津市 視察事項 港の利活用について

平成6年に地方港湾魚津港の拡張整備事業が始まり、16年に観光物販施設「海の駅蟹気楼：(株)魚津シーサイドプラザ」がオープンしました。

19年には、国土交通省から「みなとオアシス魚津」として認定され「魚津埋没林博物館」が建設されました。

そして、「競り見学と朝食」「魚津の朝市」「蟹気楼ヨットレース」「魚津漁火まつり」等のイベントが行われています。

《感想》

魚津港は港湾で国土交通省の管轄であり、三崎港は漁港で農林水産省の管轄です。

単純に比較することは出来ませんが、魚津港では「魚津埋没林博物館」が建設整備されたり「蟹気楼ヨットレース」が行われるなど、土地利用や水面利用が緩やか



であると言えます。

三浦市では、二町谷埋立地の企業誘致が大きな問題になっています。水産業の振興を図るとともに、水産業以外の企業も進出できるようにし土地利用や水面利用を推進することが必要です。

総務経済常任委員会行政視察 報告

長島 満理子

富山県南砺市は、婚活支援、定住・移住対策と空き家対策事業について、魚津市は港の利活用について視察しました。

南砺市の婚活支援事業は大変興味深い説明をお聞きすることができました。

テレビのお見合い番組をきっかけに、様々な婚活イベントを企画し開催しています。独身の男女の掘り起こしをしています。人口減少の危機感を持ち、市の職員もイベントに関わりサポートをしています。

この事業の素晴らしさは、ただ単に独身の男女をつなぐのではなく、イベントに参加するのに登録制度をつくり、軽い気持ちで参加しないように面接も行います。

また婚活応援団おせっ会という会があり会長には市長が就き、お見合い会、事前相談会、情報交換会などで、この男性にはこちらの女性が合うのではなどとまさにお節介して独身男女を繋げます。

この事業からの発信力は市にとって大きな力になると思いました。移住促進にも繋がります。

おせっ会さんの存在も大きく、地域コミュニティには欠かせないものだと思います。

魚津市は港の利活用についてでした。蟹気楼と埋没林、ホタルイカのまち魚津市とうたい、観光資源としてPRしていました。

みなとオアシス魚津では、海の駅蟹気楼や蟹気楼が見える時期は多くのひとが集まるので駐車場も整備されていました。

みなとオアシスSea級グルメグランプリ全国大会も開催され地元のバイ貝を使った「魚津バイ飯」に人気があったと説明がありました。

市の資源を有効利用し、官と民がともに協力し合い、大きな事業の成果につながるのだと感じました。



総務経済常任委員会行政視察報告書

木村 謙蔵

富山県南砺市行政視察

日時 平成29年10月30日

視察事項 婚活支援と定住・移住対策と空き家対策について
南砺市が行っている婚活支援事業

1 婚活倶楽部なんと（会員数473名）

出会いの場の提供

婚活セミナー等の開催

お見合い検索システム

2 婚活応援団なんとおせっ会（国会議員を含む会員数121名）

お見合い会、事前相談会

情報交換会（作戦会議）

結婚仲人報奨金

3 出会いイベント補助金の交付

4 成婚者祝い金の交付

5 結婚記念品の贈呈

6 結婚活動地域サポート事業

「地域に明るい話題を」を合言葉に、市内31自治振興会単位で「婚活地域サポ
ート事業」に取り組む団体の募集

おせっ会さんを含めて5人以上で構成

婚活研修の実施

婚活倶楽部なんとへの入会支援

婚活イベントの開催

7 なんと婚活大使

現在4名委嘱

実績

7年間で87組成婚カップル

定住・移住対策と空き家対策について

移住定住に向けた国や県、市の施策をパッケージ化し、手続きや情報提供をワン
ストップでサポートする体制を構築

1 情報発信事業

移住セミナーへの出店 移住フェア出店 移住コンシェルジュ事業ハウジング
プランナー認定



2 移住準備事業

体験ツアー実施 体験ハウス 空き家バンク制度 定住促進雇用対策

3 定住サポート

引っ越しサポート 家賃補助 定住補助

富山県魚津市視察

日時 平成29年10月31日

視察事項 港の利活用について

魚津港は、富山県魚津市にある地方港湾である。平成6年～平成27年度にかけて事業の基本方針は。

- 1 物資の円滑な流通を確保するための物流機能強化
- 2 防災拠点施設としての港湾施設整備
- 3 中核的漁業基地としての漁業関係施設整備充実
- 4 港湾の快適な環境及び災害時に機能するオープンスペースとしての緑地整備

事業内容

県実施	平成6年～平成27年度	総事業費約63億円
	耐震強化岸壁60m 岸壁80m 物揚場182m臨港道路等	約43億円
	緑地整備1.3h	約16億円
	ふ頭用地3.1h	約4億円
魚津漁協	水産荷捌き施設「おさかなランド」	約9億円
民間企業	海の駅「蜃気楼」	約2億円
		以上
		以上

総務経済常任委員会 行政視察報告

出口 正雄

○富山県南砺市

移住促進、婚活支援等については、大変よいことだと思います。本市も見習うところを取り入れたいと思います。

○富山県魚津市

魚津市のみなとオアシス魚津では、高度衛生管理市場を見学しましたが、残念ながら魚種の違いがあり、学ぶことについては課題が残りました。

海の駅「蜃気楼」は、目玉であると感じました。



平成29年度 総務経済常任委員会 行政視察報告書

藤田 昇

1、平成29年10月30日(月) 富山県南砺市

<視察内容>

①婚活支援、定住・移住対策と空き家対策事業について

南砺市には、世界文化遺産であり、日本の原風景が残る集落がのこる五箇山があり、平成16年11月に4つの町と4つの村が合併して南砺市が誕生しています。

今回の視察では、少子高齢化の中、三浦市と同じく、平成26年の日本創生会議が発表した、2010年から2040年までの30年間で、20歳から39歳の女性の人口が5割以下に減少すると推計される消滅可能性都市に南砺市も、61.0%と推計されています。そのような中、南砺市は最重要課題として、人口減少抑制対策に取り組んでいます。特に、平成20年11月に田中市長が誕生してから、平成21年4月に市民協働課を新設し、翌、平成22年度にショッピングセンター内に移転したものであり、現在は、市民協働課を統合した課となっているため、「協働のまちづくり係」と「広報係」も設置されている。また、平成23年には、市民協働課に「婚活支援係」を新設し、更に、移住定住施策を推進するために、平成26年4月には、「南砺で暮らしません課」という「課」の中に、定住空き家対策係、婚活支援係を設置している。また、執務場所も、ショッピングセンター内となっており、執務時間も、スーパーの営業時間にあわせ、土日・平日ともに午前10時～午後9時となっている。

南砺市の場合にはさすがに課を設置しているだけあり、その施策も充実し、成果もあげています。特に、婚活支援の取組みについては、「あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト A I P 4 8」と題した婚活支援事業を平成23年度から実施している。主な事業としては、まず、「婚活倶楽部なんと」を組織している。「婚活倶楽部なんと」は、1年以内に結婚したい、市内居住予定など、一定の要件を満たす結婚希望者の会員を募り、登録者を対象に登録者同士に出会いの場(イベント)を開催するものである。会員数は男性約250名、女性約220名、合計470名である。婚活パーティをこれまでに47回実施し、延べ1,100名が参加175組のカップルが誕生している。また、パーティに加え、個人スキルアップセミナーを46回開催して延べ840名が参加している。その上、「婚活応援団 なんとおせっ会さん」も組織しており、会員数121名、婚活倶楽部なんと会員の成婚へ向けたサポーターとして活躍。これまで写真お見合い会を19回開催。延べ約820名が参加、お見合いを約240組設定しています。そのほか「なんと婚活大使」の委嘱、さらに、都市との交流婚活事業として、「モテモテなんとお見合い大作戦」も開催しており、成婚カップルが5組誕生して



いる。まさに、あの手この手で婚活を支援している状況であり、大変に参考になりました。

また、移住・定住施策についても、移住希望者に対し、移住・定住に向けた国や県、市の施策をパッケージ化し、手続きや情報提供をワンストップサービスでサポートすることで、移住への支障を解消し、移住希望の実現を支援していることや、補助・助成制度の充実が重層的に組み立てられ、移住・定住促進に力を入れていることが良く理解でき、参考になりました。この視察を通し、12月議会の一般質問で提案していきたいと考えています。

2、平成29年10月31日（火） 富山県魚津市

<視察内容>

① 港の利活用について

みなとオアシス魚津について

みなとオアシス魚津（海の駅蜃気楼・（株）魚津シーサイドプラザ）について、視察をさせていただきました。

みなとオアシス魚津は、観光物産施設として平成16年7月にオープンしています。魚津市がみなとオアシスを設置し、運営主体は、市内魚商協働組合を中心に株式会社を設立。平成19年3月「みなとオアシス魚津」として、国交省より認定を受けています。「みなとオアシス」は、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取組みが継続的に行なわれる施設で、魚津港では、「みなとオアシスSea級グルメ全国大会」などを開催しています。また、「蜃気楼のみえる街」魚津として、魚津港に隣接した蜃気楼展望地として、県内外から多くの方が訪れています。また、海の駅蜃気楼では、地元の特産品が揃う魚津の「朝市」が開催され、多くの人で賑わっているそうです。その他にも港内には、埋没林博物館や高度衛生管理の魚市場が整備されていて、魚津市が（株）魚津シーサイドプラザと共同で運営管理をしています。

施設用地は、魚津港の拡張整備の際に港湾関連用地として整備され、魚津市が平成16年に富山県から取得し、（株）魚津シーサイドプラザに貸付等。富山県と協力して、国土交通省からの支援を受け、イベントの開催など、港の利活用を通し、魚津の魅力発信、活性化が図られていると思われました。
